

第28期第3回常任理事会議事録

日 時：1994年11月28日 13時30分～16時50分

場 所：気象庁内日本気象学会事務室

出席者：松野、関口、磯部、大西、小倉、斉藤、里村、
竹内、田中、中村、新田、藤谷 以上12名
(オブザーバー：木田理事)

議 事

1. 第28期第2回理事会議事録の確認

原案どおり承認。

2. 各委員会からの報告及び審議

庶務…後援名義等使用許可3件。

第2回アジア学術会議-科学フォーラム：
学術会議主催，95年2月，三田共用会議所
気候講演会-地球会期を変える人間活動と
気候変動：気象庁，日本気象協会主催，95
年1月，科学技術館

アイソトープ・放射線利用100年記念行事：
日本アイソトープ協会主催，95年7月，国
立教育会館虎ノ門ホール

- ・転載承認1件（気象集誌）。
- ・日本工学会からの賛同要請により，文部大臣へ刊行物助成の拡大等の要望書を連名で提出。
- ・日本学術会議第16期気象学研連委員に，以下の9会員を推薦。
新田（東大），近藤（東北大），田中（名大），
木田（京大），牧野（気象研），山内（極地研），
山岸（気象庁），高橋（九大），松田（東大）

会計…1994年10月の収支状況を報告，気象集誌の
支出が予算より多いのは，カラーページの
増加も原因。現行の1ページ5万円を改め，
著者からの必要経費の徴収や安価な印刷方
法の研究等により収支の適正化を図る。

- ・94年秋季大会収支を報告。収入は参加費95
万円。支出は会場費，運営費，シンポジウ
ム経費等で229万円。国際学術交流費からの
補助も含め，全体としては予算内。

天気…11月号の内容及び12，1月号の予定を報告。

- ・「研究機関めぐり」が終了した。1月号から
新しい欄を開始する。

気象集誌…第6号を予定どおり印刷中。

- ・TOGA-COARE 特別号は一部の論文の改

稿が遅れており，2月発行を遅らせ，来年
度にずれ込む見込み。

- ・HEIFE 特集号に対し，文部省の補助金を
申請した。補助が下りる場合は単行本の体
裁になるが，配布は集誌に準じて行いたい。
- ・HEIFE の特別編集委員4名を依頼する件
を承認。

研究ノート…やませ特集は原稿がそろい，編集委
員が査読中。その他5編は今年中に原稿締
切予定で取りまとめ中。文部省科研費補助
金（研究成果公開促進費）への応募は，今
年度は見送り，来年度以降は理事会や編集
委員会で検討する。

教育と普及…気象談話室で「予報士制度，官民の
役割分担」などの記事を投稿してもらうよ
う，気象庁担当者に意向を打診中。

- ・福岡大会での奨励金受領者に「天気」への
投稿を依頼する。
- ・『教養の気象学』の部分改訂を急いで行うこ
とにした。レベルは大学教養課程(文科系)
程度。現版の執筆者や書店の意向を聞く。
- ・関東支部設立の議論が遅れているため，と
りあえず来年の夏季大学の準備を例年どお
りの日程で開始する。

総合計画…地球惑星関連学会連絡会担当委員を木
田理事から田中(博)常任理事に変更するこ
とを常任理事会として承認。

- ・来年3月に日大文理学部で開催予定の上記
連絡会の合同大会に関連し，前回理事会で
も報告のあった「MU レーダー観測10年」
シンポジウムの共催学会になる件を了承。
「固体地球と流体地球の力学的カップリン
グ」(海洋学会と共催)については，共催の
依頼が最近になってきたため，気象学会と
しては対応ができない。もし，共催が既定
事実として動かせないのなら事後承諾する
が，なるべくなら共催を外してもらう。
「シューメーカー・レビー彗星の木星衝突」
(天文学会と共催)については，天文学会自
体が気象学会との共催を前提とせず準備
を進めているようなので，共催としない。

パソコン通信…10月の着信件数282件。

- ・月刊誌「ONLINE TODAY JAPAN」11月号に学会 BBS の紹介記事が掲載された。このためか、11月は中旬まででユーザー登録申し込みが60名を超えている。学会の紹介に役立った。ただし、一般企業社員の申し込みも多く、データベースの会員名簿が商業利用されるおそれあり、この件については常任理事会として討議し、学会員以外には名簿が見られないように制限を設けることを決定。至急対処する。
- ・12月中に学会 BBS のメニュー変更を行う。内容は、利用のないコーナーの廃止、現在のメニューの整理、学会機関誌のコンテンツサービスの新設など、将来は支部間の事務連絡、入会手続きなどに利用を広げたい。インターネットとの接続の検討も学会として必要。

その他…(理事長) 11月25日に MU レーダー10周年の記念式典が信楽であり、気象学会から祝電を打った。

3. 会員の新規加入等について
個人8名、団体1の入会を承認。個人28名、団体2の退会を報告。
4. 第28期評議員の委嘱について
あと1名について、まだ本人確認が取れていない。早急に理事長があたる。
5. 研究ネットワーク連合委員会への加盟について
コンピュータ・コミュニケーションが学術分野で重要な基盤のひとつとの認識をもつ学協会が集まり、研究ネットワークのあるべき姿を学術団体の立場から提示することを目的に作られた「研究ネットワーク連合委員会」(事務局：東京大学計算機センター内)という組織がある。学会としてインターネットの動向などの情報を収集することが必要なため、これに加盟してはどうかとの提案が里村常任理事からあり、常任理事会として討議。加盟することを決定。連合委員会の本委員(加盟団体あたり1名)については、里村常任理事を推薦。当面は本委員を通じて、年2回の総会への出席、情報交換などにあたる。会費はない。
6. 「気象・海洋のデータ同化に関する国際会議」の論文集の刊行について
第2回常任理事会で共催することの報告が了承された標記国際会議(WMO, 気象庁, 気象学会, 海

洋学会の共催)に関連して、国内組織委員会の北出武夫委員長(気象庁数値予報課)から気象学会に対し、会議の成果をまとめた論文集を気象学会の印刷物(気象集誌の特別号)として刊行してもらいたいとの申し入れがあった。経費については組織委員会が集める寄付金によりまかなうため、気象学会としての支出はない。常任理事会として討議した結果、気象集誌の特別号として刊行することを了承。今後、学会員への無料配布の手順、組織委員会が責任をもつ編集作業への気象集誌編集委員の関与のありかたなどについて両者の間で詰めていくこととする。

7. 若手会の冬の学校の開催について
気象学会若手会から講演企画委員会に対して要請のあった、来年度の夏の学校を2月に繰り上げ、「冬の学校」として開催する件について常任理事会として討議。学会の公式行事として冬の学校を認め、来年度の夏の学校の補助金を前倒し支出することを了承。若手会として、夏・冬、2回の学校を毎年開催する方針が正式に打ち出されれば、現在の補助金5万円を2倍に増額することも確認した。
8. 1995年度事業計画案、予算案について
関東支部の設置が決まった場合の予算措置、業者倒産の影響による気象集誌の単価アップ、消費税率の引き上げなど、将来的に学会財政の悪化が見込まれる。会計担当理事から、各担当で来年度の必要経費の積算、今年度の収支状況の報告を次回常任理事会までに行ってほしいとの要望があった。

お詫びと訂正：第28期第2回常任理事会議事録(「天気」94年11月号掲載)のうち、理事長からの報告として「学術会議 WCRP 専門委員4名の推薦依頼があり、推薦した」とあるのは、WCRP 専門委員会の前の委員長である松野太郎教授に推薦依頼があったことを常任理事会に関連する話題として話されたものであり、議事録に収録すべき内容ではありませんでした。気象学会だけが学術会議から特別扱いを受けたと誤解されかねない内容のため、お詫びするとともに、この項を削除します。